



ARCHTECTURE REVIEW



建築見て歩記 その54

京都にある「国立博物館平成知新館」です。谷口吉生の設計で、2013年に開館しました。谷口氏らしいミニマムで美しいプロポーションの建築です。展示ケースなどのディテールへのこだわりも、相変わらず見事で、照明のコントロールも良く、見応えがあります。個人的には、入場券売場の横の「カフェ」が、ガラス越しに望む水盤と空間がひとつになり、お勧めです。

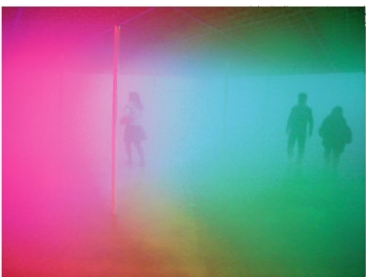
CURRENTLY WORKS



薬局の部分改修・・・部分から全体へ

調剤薬局では、平日は休めないため、全面改修のチャンスが少ないのが実情です。今回も「1日」でカウンターを入れ換えることが主眼でしたがせっかくの機会ですので、店内の様々な部分にテーマカラーのサインやパネルを分散させて、全体が変わったと感じられるように計画しました。施工時間の制約はありますが、常に全体を考えた提案を心掛けています。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その13

これは、2010年に「金沢21世紀美術館」で開催された「オラファー・エリアソン展」での作品「見えないものが見えてくる」です。広い部屋に霧を満たし、色のついた光を当てることで、空間を染め上げています。自身の移動とともに、光の色が混じり合い、「色」だけの空間に身を置くことは、他の鑑賞者のシルエットも含めて、美しく刺激的な体験でした。

EDITORIAL NOTE

1月16日は、かつて「藪入り」と呼ばれ、江戸時代、商家に住み込みで働いていた奉公人たちの数少ない休みの日でした。この日は実家へ帰ってゆっくりしたり、実家が遠方の人たちは、主から小遣いを貰い芝居見物などで楽しんだそうです。半年後の7月16日も「後の藪入り」と呼ばれ、同様に過ごしました。

編集担当：太田・藤原